

日本社会福祉学会  
第45回大会へのご案内

[期間] 1997年10月25日(土)～26日(日)

[会場] 龍谷大学・京都深草学舎

[日程] 第1日 10月25日(土) 第2日 10月26日(日)

9:00	受付開始	9:30～12:00	自由研究発表・特別分科会
10:00～11:40	自由研究発表	11:00～12:00	ポスター発表
11:40～12:30	休憩・昼食	12:00～13:00	休憩・昼食
12:30～14:00	学会総会	13:00～14:40	自由研究発表
14:00～18:00	大会記念シンポジウム	〈9:00～14:30 関連学会・研究紹介コーナー〉	
〈18:00～18:30	関連学会・研究交流会〉		
18:40～20:00	懇親会		

[大会記念シンポジウム]

テーマ：「社会福祉研究一戦後50年の総括と21世紀への展望」

第1日 10月25日(土)

9:00 10:00 11:40 12:30 14:00 18:00 18:30 20:00  
18:40

受 付	自由研究発表	休憩・昼食	学会総会	大会記念 シンポジウム	懇親会
--------	--------	-------	------	----------------	-----

関連学会・研究交流会

26(日)  
第2日 10月26日(土)

9:00 11:00 12:00 13:00 14:40

特別分科会	自由研究発表	ポスター発表	休憩・昼食	自由研究発表	
-------	--------	--------	-------	--------	--

(9:00～14:30 関連学会・研究紹介コーナー)

※早めの予約をお願いします。



1997年度

## 第4回理事会報告

1997年3月7日、東洋大学浦水会館の会議室において第4回理事会が開催されました。阿部志郎会長の挨拶に続き、古川孝順事務局長の司会で理事会が行われました。理事の出欠状況及び会員の現況については資料を参照してください。以下議題に沿って内容及び結論を要約して報告します。

### 第1号議案 財政の状況について

高橋庶務担当理事より①会費納入状況について②預金残高について報告が行われました。

### 第2号議案 第45回大会について

第45回大会担当の龍谷大学より記念シンポジウム案が提出され承認されました。

### 第3号議案 第47回大会について

小田兼三理事より発言があり、第47回大会を川崎医療福祉大学（岡山県）において開催を引き受ける旨の発言があり、承認されました。

### 第4号議案 特別委員会について

#### 1. 国際比較研究委員会の設置について

古川事務局長より、添付資料のような国際比較研究委員会設置の提案があり承認されました。

#### 【添付資料1】

#### 国際比較研究委員会の設置について

##### 〔I〕趣 旨

国際化の時代を迎え、諸外国の社会福祉に関する研究の重要性が一層拡大しつつあることを踏まえ、この際学会を挙げて国際比較の方法論についての研究を深めることを課題として特別委員会を設置する。国際比較ということになれば、アジア諸国についても視野に入れる必要のあることは言うまでもないが、「比較研究についての方法論」の研究を当面の課題とするため本委員会においては先行研究の蓄積の多いヨーロッパと北アメリカを中心とする。

##### 〔II〕名 称

（仮称）国際比較研究委員会とする。

##### 〔III〕期 間

1997年4月から98年3月までとする。

##### 〔IV〕委員構成（案）

委員長 阿部 志郎

委 員 井岡 勉 （理事）（幹事） スウェーデン

秋山 智久 （理事） アメリカ

田端 光美 （理事） イギリス

橋本 一三郎（上智大学） ドイツ

なお、上記委員のほかに必要に応じて専門委員を委嘱しうるものとする。

##### 〔V〕予 算

安田火災記念財団による助成金をもって充てる。

1996年度分として150万円の助成を受けている（96年10月）が、97年度分について



は96年度の実績をみてという事になっている。

なお、上記150万円には英文誌刊行に関わる費用に一部を充当する予定であり、本委員会の予算額については活動実績によって調整するものとする。

## 2. シンポジウム企画実施委員会

昨年に続き、今年度もシンポジウムを開催したい旨高橋担当理事から発言があり承認されました。

昨年は全国4ヶ所（札幌、東京、京都、北九州）で開催しましたが、今年は予算を考えながら、次回の理事会を待っては、時期的に遅いため、運営委員会で検討する事になりました。

さらに、昨年東京で開催した児童福祉制度改革公開シンポジウムに、論文と座談会を加え、日本社会福祉学会編『児童福祉の戦後50年』を川島書店から刊行することがすでに承認されていますがその進捗状況が報告されました。

### 【添付資料2】

#### 企 画 案

1996年5月19日に開催いたしました児童福祉制度改革公開シンポジウムを中心に論文と座談会を加え、児童福祉制度制定50周年を迎えるのを記念して、『児童福祉の戦後50年』というタイトルで、日本社会福祉学会が刊行する。

はじめに

阿部志郎（日本社会福祉学会会長）

#### I 今日の児童福祉をめぐる問題状況と改革

1. 高橋 重宏（駒沢大学教授）
2. 桜井 慶一（県立新潟女子短期大学教授）
3. 林 浩康（北星学園大学教授）
4. 平戸ルリ子（東京家政大学教授）
5. 豊島 律（熊本学園大学教授）
6. 古川 孝順（東洋大学教授）

#### II 児童福祉制度改革公開シンポジウム：子ども家庭施策の新たな動向

1. 基調講演『児童福祉制度の見直しについて』高木俊明（厚生省児童家庭局長）
2. シンポジウム

シンポジスト 室谷 千英（神奈川県副知事） 福島 一雄（共生会希望の家園長）  
林 千代（城西国際大学教授） 桜井 慶一（県立新潟女子短期大学教授）  
小笠原彩子（弁護士）

コメンテーター 庄司 洋子（立教大学教授） 山縣 文治（大阪市立大学助教授）

コーディネーター 古川 孝順（東洋大学教授） 高橋 重宏（駒沢大学教授）

#### III 座談会 児童福祉の戦後50年

一番ヶ瀬康子（東洋大学教授） 庄司 洋子（立教大学教授） 竹中 哲夫（日本福祉大学教授）  
山縣 文治（大阪市立大学助教授）

司会 高橋 重宏（駒沢大学教授）

松島 政儀（東京育成園・全国養護施設協会顧問）－聞き取り

## 3. 記念出版刊行委員会

### A. 「20世紀社会福祉編年史資料作成」編集委員会

すでに、日本社会福祉学会編「20世紀社会福祉編年史資料」を有斐閣から出版するこ



とが了承されていますが、担当の古川事務局長から、以下のような進捗状況の報告があり  
了承されました。

【添付資料3】

編年史編集委員会報告

1997年1月24日に第2回委員会を開催し、およその時期区分と担当者、専門委員の委嘱に  
ついて審議決定した。

【I】時期区分と担当者

- |             |               |             |               |
|-------------|---------------|-------------|---------------|
| 1) 慈善救済の胎動  | 池田敬正 (仏教大学)   | 2) 慈善救済の成立  | 宇都栄子 (専修大学)   |
| 3) 慈善救済の展開  | 宇都栄子 (専修大学)   | 4) 感化救済事業   | 池田敬正 (仏教大学)   |
| 5) 社会事業の成立  | 土井洋一 (大阪府立大学) | 6) 社会事業の展開  | 土井洋一 (大阪府立大学) |
| 7) 社会事業の転形  | 永岡正己 (日本福祉大学) | 8) 社会福祉の成立  | 永岡正己 (日本福祉大学) |
| 9) 社会福祉の展開  | 遠藤興一 (明治学院大学) | 10) 社会福祉の改革 | 遠藤興一 (明治学院大学) |
| 11) 社会福祉の定着 | 古川孝順 (東洋大学)   |             |               |

【II】専門委員

B. 講座各巻担当編集委員会

すでに、日本社会福祉学会編「講座戦後社会福祉の総括と21世紀への展望」(全4巻)  
をドメス出版より刊行することが承認されていますが、その進捗状況が担当の古川事務局  
長より報告され承認されました。

【添付資料4】

講座の名称及び編集委員

- (第1巻)『戦後社会福祉の総括と21世紀への展望—1総論』  
一番ヶ瀬康子・高島進・高田真治・京極高宣編
- (第2巻)『戦後社会福祉の総括と21世紀への展望—2思想と理論』  
阿部志郎・右田紀久恵・宮田和明・松井二郎編
- (第3巻)『戦後社会福祉の総括と21世紀への展望—3政策と制度』  
三浦文夫・田端光美・高橋絨士・古川孝順編
- (第4巻)『戦後社会福祉の総括と21世紀への展望—4方法と技術』  
仲村優一・窪田暁子・岡本民夫・太田義弘編

4. 英文誌刊行委員会

5. 「社会福祉における国際協力のあり方」応用編について

第5号議案

昨年度の総会の決定に基づき、選挙管理委員会が設置されました。選挙管理委員会委員長谷口  
正隆氏(日本女子大学)、委員大澤隆氏(東洋英和女子学院大学)、岡田英己子氏(日本社会事業  
大学)より、学会の理事・監事による投票が実施されました。会員候補については、添付資料の  
ように仲村優一会員が選出されましたが、推薦人については、規定に基づく該当者が選出されず、  
再度投票を実施しました。その結果、古川孝順会員と高橋重宏会員が選任されました。だが、高  
橋重宏会員が日本社会福祉実践理論学会の推薦人にすでに選出されているとの理由で辞退があり、  
次点の一番ヶ瀬康子会員が選出されました。その後日本学術会議よりもう一人推薦人を選出して  
欲しい旨の要請があり、阿部志郎会長が選出されました。



なお、日本学術会議社会福祉・社会保障研究連絡委員会の会員推薦の推薦人会議が5月9日(金)午後日本学術会議において開催されました。傘下の14団体(日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本社会福祉実践理論学会、日本保健福祉学会、日本介護福祉学会、社会事業史研究会、日本仏教社会福祉学会、日本年金学会、日本職業リハビリテーション学会、日本難病看護学会、日本児童育成学会、日本老年社会科学会、日本児童学会、日本医療社会福祉学会)の推薦人16人により投票が行われ、会員候補者に仲村優一会員が、次点者に三浦文夫氏が選出されました。

【添付資料】

1996年11月19日

日本社会福祉学会  
会長 阿部 志郎 殿

選挙管理委員会  
委員長 谷口 正隆  
委員 大澤 隆  
岡田 英己子

1996年日本社会福祉学会・日本学術会議会員候補者・推薦人選挙の結果について日本学術会議会員候補者・推薦人選挙の結果について下記の通り報告致します。

【I】選挙の経過

有資格者 22名 有効投票数 18 無効投票数 0  
開票日 1996年11月18日 18:30~20:00

【II】開票の結果

- 1) 会員候補者 1名(有効票総数 18)  
仲村 優一 14 阿部 志郎 3 太田義弘 1
- 2) 推薦人 2名(有効票総数 36)  
古川 孝順 10 一番ヶ瀬康子 4 阿部 志郎 3 大橋 謙策 3  
田端 光美 3 岡本 民夫 2 京極 高宣 2 高橋 重宏 2  
太田 義弘 1 小田 兼三 1 窪田 暁子 1 高島 進 1  
浜野 一郎 1 松井 二郎 1 吉沢 英子 1

【III】開票結果について

- 1) 規程の解釈について  
今回の投票に関する事務連絡には「会員予定候補者及び推薦人は全理事・監事の3分の2の得票を得たものとし、3分の2を得られない場合は、再度選挙を実施いたします」とあるが、学会総会時の議案書には「全理事・監事の3分の2投票をもって有効とみなし、それぞれ3分の2以上の得票を得た者をもってあてることとする。得票が3分の2以上に達しない場合には、3分の2以上に達するまで投票を繰り返すものとする」とあるので、後者を正本とする解釈を採用する。
- 2) 会員予定候補者について  
1) の解釈によれば、会員候補者に必要とされる有効票数は18票の3分の2で、12票以上ということになり、仲村優一氏をもって会員候補者とする。
- 3) 推薦人について  
a) の解釈によれば、推薦人に必要とされる有効票数は18票の3分の2の12票以上ということになり、この条件を満たすものは存在せず、再選挙が必要である。

日社学発第41号  
1996年11月22日



【添付資料】

理事・監事 各位

日本社会福祉学会  
会長 阿部 志郎

日本学術会議会員候補者・推薦人選挙の結果の取扱について

平素学会の運営についてご協力頂き感謝致します。

昨11月18日表記選挙の件につき選挙管理委員会より別紙の通り報告がありました。報告にありますように、選挙に関する事務連絡において大会に提出した議案の内容と異なる記述があり、若干の混乱を生じたほか、推薦人に関しては再選挙が必要となりました。

つきましては、今後混乱を避け、かつ効率的な制度とするため、規程の整備に努めるという条件を付したうえで、下記の各号につき、理事・監事の皆様に判断を仰ぎたいと考えます。誠に恐縮ですが、同封の葉書にて一括して可否のご回答をお願い致します。

- 1) 選挙方式の解釈については、選挙管理委員会の解釈を尊重し、可及的速やかに規程を作成する。
- 2) 1)を前提に、会員予定候補のは仲村優一氏をもってあてる。
- 3) 推薦人については再選挙を実施するが、新たに以下の条件を付すことにする。
  - 1 選挙管理委員会の解釈を前提とするが、3分の2の得票を得るものが1名の場合には、得票数においてこれに次ぐ者を加えて2名をもって推薦人とし、3分の2の得票を得る者がいなかった場合には得票数の順に上位2名をもって推薦人とする。
  - 2 上記推薦人に辞退者が生じた場合には、得票数の順に順次繰り上げて推薦人にあてるものとする。

なお、推薦人の退任につきましてもあまり時間的な余裕がありません。歳が瀬もおしつまって参りますのでご回答の最終的となりまとめを待たずに、事務的に一部平行して推薦人の選挙を実施させていただきたいと思えます。上記の提案が否決された場合には、選挙の結果につきましては、「3分の2の得票者がでるまで繰り返す」という過程の一部として位置づけさせて頂くこととなりますので、そのようにご理解をお願いします。

【添付資料】

1996年12月16日

日本社会福祉学会  
会長 阿部 志郎 殿

選挙管理委員会  
委員長 谷口 政隆  
委員 大澤 隆  
岡田 英己子

1996年日本社会福祉学会・日本学術会議推薦人選挙（第2回）結果について  
日本学術会議会員候補者・推薦人選挙の結果について下記の通り報告致します。

【I】選挙の経過

有資格者 22名 投票者 18名  
開票日 1996年12月16日 18:30~19:30

【II】開票の結果（2名連記）

1) 有効票総数35票 白票 1票  
得票数 古川 孝順 12票 当  
高橋 重宏 5票 当  
次点一番々 瀬康子 4票  
阿部 志郎 3票 大橋 謙策 2票 田端 光美 2票 岡本 民夫 2票  
秋山 智久 1票 太田 義弘 1票 仲村 優一 1票 三友 雅夫 1票  
吉沢 英子 1票

【III】開票結果について



1) 規程の解釈について

今回の投票に関する事務連絡には「会員予定候補者及び推薦人は全理事・監事の3分の2を得たものとし、3分の2を得られない場合は、再度選挙を実施いたします」とあるが、学会総会時の議案書には「全理事・監事の3分の2投票をもって有効とみなし、それぞれ3分の2以上の得票を得た者をもってあてることとする。得票が3分の2以上に達しない場合には、3分の2以上に達するまで投票を繰り返すものとする」とあるので、後者を正本とする解釈を採用する。

2) 会員予定候補者について

1) の解釈によれば、会員候補者に必要とされる有効票数は18票の3分の2で、12票以上ということになり、仲村優一氏をもって会員予定候補者とする。

3) 推薦人について

a) の解釈によれば、推薦人に必要とされる有効票数は18票の3分の2で、12票以上ということになり、この条件を満たすものは存在せず、再選挙が必要である。

日本学術会議会員候補及び推薦選挙人の選挙の結果について

日本社会福祉学会

会長 阿部 志郎

11月18日に第1回選挙管理委員会が開催され、仲村優一氏が、日本社会福祉学会の会員候補として選出されました。また、12月16日に第2回選挙管理委員会が開催され、別紙の通り報告がありました。その後、高橋重宏理事より辞退届が提出されました。

「推薦人に辞退者が生じた場合には、得票数の順に順次繰り上げて推薦人にあてるものとする。」と以前お伝えいたしましたので、一番ヶ瀬康子理事を推薦人とさせていただきます。

また、その後、日本学術会議事務局より、推薦人が2名(9月の時点)より3名に決定されたとの通知が届きました。そのため、次点繰り上げにより阿部志郎理事を推薦人とさせていただきたいと思っております。

以上、ご了承のほど、お願いいたします。

- 1. 会員候補 (1名) 仲村優一
- 2. 推薦人 (3名) 古川孝順 一番ヶ瀬康子 阿部志郎

第6号議案 地方部会の活性化について

[I] 趣 旨

地方部会の活性化については日頃担当理事各位にお骨折り戴いておりますが、新年度を迎えるにあたり、その一環としてかねて懸案としてきました地方部会の学会化についてあらためてその推進方をお願い致したく、ここにご提案いたします。

[II] 地方学会の性格

- 1) 地方学会は学術団体としての登録を行う。
- 2) 地方学会は日本社会福祉学会とは独立した学会とし、会員としての承認、登録、会費は別立てとする。
- 3) したがって、地方学会の会員と日本社会福祉学会の会員は基本的には二重登録となるが、何れか一方の学会のみに登録する会員の存在もありうるものとする。
- 4) 二重登録会員は二重に会費を負担する。
- 5) 従来の地方部会還元金は地方学会成立の時期をもって廃止する。
- 6) 地方部会は、独自に会則を定め、会長・理事を選任する。
- 7) 地方部会と日本社会福祉学会との関係を維持するため、地方学会の会長をもって日本社会福祉学会の地方拒当理事とする。

[III] 手 順



- 1) 学会化は地方部会の状況に応じて準備の整ったところから実施する。
- 2) 98年度予算を編成するにあたっては還元金に地方学会推進費の性格をもたせる。
- 3) 地方学会の発足にあたっては地方部会のメンバーをもって設立会員とし、以後独立して会員と予算の管理を行う。

[IV] その他

地方部会の独立について、部会還元金のあり方についてなど、活発な討議が行われました。また昨年公開シンポジウムを開催した北海道より、活性化にかなり役立ったとの報告がありました。阿部会長より、地方部会への還元金について、1997年度は今の制度を続行し、希望があれば、公開シンポジウムを開催してもらい、奨励準備金として学会より補助したらどうかという提案がありました。

第7号議案 入会希望者の審査について

書類審査が行われ76名の入会が承認されました。(9ページ参照)

- 報告事項
- 1.「社会福祉学」38-1について、他
  - 2.アジア社会福祉学について
  - 3.各地方部会報告
  - 4.第44回大会報告
  - 5.その他

日本社会福祉学会理事会出席状況

役 職 名	理 事 氏 名	出 欠
会 長	阿 部 志 郎	○
会長職務代行理事	一番ヶ瀬康子	×
総務担当理事	古川孝順	○
研究担当理事	田端光美	○
渉外担当理事	秋山智久	○
機関誌担当理事	松井二郎	○
庶務担当理事	高橋重宏	○
理事(北海道部会担当)	忍 博 次	○
理事(東北部会担当)	渡部剛士	○
理事(関東部会担当)	三友雅夫	○
理事(中部担当理事)	高 島 進	×

事務局員 春山 陽子

役 職 名	理 事 氏 名	出 欠
理事(関西部会担当)	井 岡 勉	○
理事(中四部会担当)	小 田 兼 三	○
理事(九州部会担当)	橋 本 泰 子	×
理 事	京 極 高 宣	×
理 事	太 田 義 弘	○
理 事	児 島 美 都 子	×
理 事	岡 本 民 夫	○
理 事	大 友 信 勝	○
理 事	中 園 康 夫	○
監 事	小 松 源 助	×
監 事	中 垣 昌 美	×



## 入会希望者の審査結果

1997年3月7日

第4回の理事会で、入会審査が行われ、下記の方々の入会が決定しました。

- 1 飯村 史恵 東京都社会福祉協議会
- 2 石川さとみ 立教大学大学院
- 3 石田 易司 朝日新聞大阪厚生文化事業団
- 4 井上 朋子 淑徳大学大学院
- 5 上野 弘司 泉大津市役所児童福祉課
- 6 榎松 修一 九州福祉衛生専門学校
- 7 大泉 哲子 日本赤十字秋田短期大学
- 8 大見川正治 文京女子短期大学保育科
- 9 小野澤章子 岩手県立盛岡短期大学
- 10 郭 麗月 近畿大学
- 11 片岡 靖子 西陣健康会 堀川病院
- 12 加藤 邦夫 仙台白百合女子大学
- 13 加藤 久直 教護院三重県立国児学園
- 14 川名 勝久 特別ホーム中郷記念館
- 15 河股 智子 北星学園大学大学院
- 16 北原 常男 神郷の園
- 17 楠 峰光 西日本短期大学
- 18 久能 由弥 北星学園大学大学院
- 19 久米 秀作 帝京平成大学
- 20 栗山 直子
- 21 黒部 一允 神奈川県民生福祉協会さつき寮
- 22 小泉 秀信 横浜市青葉福祉事務所
- 23 小杉真智子 北星学園大学大学院
- 24 小辻 奈美 京都教育大学大学院
- 25 小尾智恵子 堺市役所東福祉事務所
- 26 合田 誠 四条畷学園女子短期大学
- 27 合津 文雄 市立大町総合病院
- 28 斎藤 恵子 福島介護福祉専門学校
- 29 櫻井 治男 皇学館大学
- 30 佐藤 忠 国立身体障害者リハビリテーションセンター
- 31 里見 恵子 大阪府立大学
- 32 澤田 修 水戸市福祉作業所
- 33 柴田 知子 帝京平成短期大学
- 34 嶋崎理佐子 立教大学大学院

開会

- 35 杉山 玉江 日本福祉大学
- 36 須永 誠 東京都社会福祉協議会
- 37 徳宏 静子 広島YMCA健康福祉専門学校
- 38 清野 徳子 仙台白百合女子大学
- 39 関 正勝 立教大学
- 40 関根 薫 龍谷大学大学院
- 41 竹沢 昌子 沖縄福祉保育専門学校
- 42 立川 百恵 えひめ生活協同組合
- 43 津島 順子 さわらび苑デイサービスセンター
- 44 寺久保光良 和光市役所
- 45 戸澤由美恵 共栄女子短期大学
- 46 鳥居 撰子 金沢大学大学院
- 47 内藤 勇次 神戸女子大学
- 48 中山 忠政 筑波大学大学院
- 49 永田あゆみ 博仁会
- 50 永山 誠 県立高知女子大学
- 51 西垣 千春 光華女子短期大学
- 52 萩 吉康 皇學館大学
- 53 橋本 正明 至誠学舎至誠ホーム
- 54 橋本 正弘 岡山家庭裁判所
- 55 林 清三 淑徳大学大学院
- 56 日高 由央 東京都老人総合研究所
- 57 福島喜代子 UCLA社会福祉学部大学院
- 58 福山 清蔵 立教大学
- 59 藤野 好美 同志社大学大学院
- 60 船橋 恒裕 同志社大学大学院
- 61 細江 達郎 岩手大学人文社会学部
- 62 堀井 滋 芦屋女子短期大学
- 63 増子 正 仙台医療福祉専門学校
- 64 松浦 範子 神戸女子大学文学部
- 65 松山 光生 筑波大学大学院
- 66 丸山 一郎 日本障害者リハビリテーション協会
- 67 圓山 洋子 精神薄弱者更生施設いみず苑
- 68 水谷 利亮 大阪市立大学大学院
- 69 宮崎 稔 川越市役所
- 70 安井 豊子 近畿社会福祉専門学校
- 71 山口 達也 滋賀県高齢者総合相談センター
- 72 山崎 百子 帝京医療福祉研究センター
- 73 山田 裕子 同志社大学
- 74 山野 則子 堺市役所東福祉事務所
- 75 吉成 孝夫 特養ホームくにたち苑
- 76 流王 治郎 岡山県立総合社会福祉センター



## 学会ニュース・第14号 編集後記

▼日本社会福祉学会の第45回大会が龍谷大学(京都深草学舎)で開催されます。多くの会員のご参加をお待ちしております。また、10月25日(土)、26日(日)は観光シーズンです、ホテルの予約を早めにされることをおすすめします。

▼改正児童福祉法が成立し、6月11日公布され、1998年4月1日から施行されることになりました。学会では昨年に続き公開シンポジウムを6月29日(日)東洋大学にて開催します。午前中の基調講演には厚生省児童家庭局企画課大泉博子課長を迎え、改正児童福祉法についてお話を伺い、質疑も予定しています。午後は、シンポジウムを予定し、それぞれのシンポジストから今後の課題を提示し、議論を深めたいと考えています。多くの会員のご参加をお願いします。定員は500人です。参加希望者は、学会事務局へFAX又ははがきで申し込んで下さい。定員をオーバーしだいにはご連絡します。

▼3月7日の理事会で新入会員が47名承認され、会員は2,862人になりました(6月3日現在)。なお、1997年度第1回理事会

は6月28日開催される予定です。

高橋 重宏(庶務担当理事)

## 事務局連絡

### ●口座番号変更のお知らせ

今までの取引銀行が統廃合のため支店が変わり、事務局より遠くなりましたので、取引金融機関が変わりました。

口座番号も変更になりましたので、今回お送りした振込用紙でお支払い下さい。(昨年のものですと銀行振込ができません。)

●折角お送りした郵便物が住所不明で戻ってくるのが、この時期多いようです。追跡調査をしても送付のたびに新たに住所不明の方が出現されます。住所等の変更は早目をお願い致します。(ご連絡はなるべくFAX又はおハガキで) (事務局・春山)

### 訃報

会員の松島正儀氏(日本養護施設協議会顧問)が4月3日に亡くなられました。

当学会の名誉会員で代表理事や理事を歴任された磯村英一氏が去る4月5日に亡くなられました。

慎んでお悔やみを申し上げます。

## 学会事務局のご案内

窓口業務時間 9:30~16:30

(月~金)

休業日 土・日・祝祭日

夏期休業 8月10日~8月19日

\*事務局員外出の場合は、留守番電話での対応になることがあいますので、ご了承下さい。

*	発行人 阿部 志郎	*
	編集人 古川 孝順	学会ニュース14号
	発行日 1997年6月20日	
	発行 日本社会福祉学会	
	〒160 東京都新宿区四谷4-6-1四谷サンハイツ1209号室	
*	TEL.03-3356-7824 FAX.03-3358-2204	*